

2012 年度 第2回トライアル委員会 議事録

【ダイジェスト版】

開催日 : 2013年3月13日(水) 午前10時30分～

開催場所 : 一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会・会議室

1. 普及対策について

普及対策の施策として、2020年ビジョン(TR版)資料を基に、報告された。

- ① トライアルハンドブックのリニューアル。
- ② TR アカデミーを継続開催する。
- ③ トライアルデナシオンは、今年も IAS の若手選手を中心に選手会でとりまとめを行う。
- ④ 世界選手権トライアルで、FIM125cc クラスの混走として“ルーキーズクラス”を設定し、前年の TRGC 上位者 6 名に出場権限を与える。
- ⑤ 全日本会場での試乗会を、メーカー・インポーターの協力により継続実施する予定。
- ⑥ トライアルを知らない人へのアプローチ方法として、トライアルデモンストレーションは非常に効果的であるとの意見が上がり、モトクロスで TE スポーツと JKA がコラボレートしてオートレース場の駐車場等を利用したキッズバイクスクールが実施されていることが紹介され、ここにデモンストレーションを入れられないか？MFJ 事務局より JKA にアプローチする。
- ⑦ キョウセイドライバーランドで開催された「Fujigas ミーティング」は非常に好評であったことが報告された。2013 年については、現在のところ未定であるが、選手の協力が得られるようであれば継続して実施したいとの意向が選手会から報告された。

< 今季の追加課題 >

- ◆ ノンストップルールの全日本導入について (FIM で得た情報を基に、海外の国内事情を参考情報として報告された)
 - 8 月までに世界選手権が終了する為、その後にノンストップルールに関して FIM から動きがあるものと予測する。
 - MFJTR 委員会としては、8 月までに 2014 年に国内規則化できるような準備は進行する。

- ◆ 2mMAX 音量測定方式の導入について
 - 2014 年から全日本でも 2mMAX 方式を実施することが確認された。100dB/A (2st)、103dB/A (4st)
 - 既にモトクロスで実践されている規定を参考に、2mMAX 方式を実践することが確認された。

- ◆ わかりやすい競技情報の発信
 - 2013 年度は WEB による情報発信を強化する。特に全日本選手権各大会のエントリーリスト・セクションマップ・タイスケ等の情報を極力早く、MFJ オンラインマガジンに掲載するよう主催者にも協力を要請する。
 - 昨年中部大会で実施された、QR コードで競技の途中経過を閲覧できるシステムを 2013 年も継続して実施する。また、同様のシステムで実現可能な大会があれば、積極的に導入するよう各大会で検討して頂く。

- ◆ 快適な観戦環境の提供
 - インポーター・メーカーとの会合を今年も開催予定。
 - 会場における飲食ブースは、各大会主催者と地元商工会やスポンサーとの調整で改善されている。

◆その他

- トップライダーのサイン会は、継続して行う。
- 主催者の営業手法として、地元企業や販売店の小口協賛を集める方法も推奨していく。

2. 2013 国内競技規則の変更点について (確認)

2013 年シーズン開幕前に、国内競技規則の変更点について、確認が行われた。

① スプロケットカバー

スプロケットカバーの装着が義務付けとなった。

ユーザーからの問い合わせにより、スプロケットのボルト穴が取付穴以外で穴が開いたままの状態の形状は、穴をふさぐことと段差が発生するくぼみについては指がひっかかる可能性がある為、表面をフラットにする必要があるとの見解であることが技術委員会の審議で決定したことが報告された。

全日本でのアシスタントの車両もスプロケットカバーが義務付けとなることが確認された。

② 進行方向表示ゲートの大きさが規定と違うサイズのもの採用されているケースがあり、改善が要望された。

③ マウスガード装着の推奨が追加され MFJ ホームページに推奨歯科医リストが公表されていることが報告された。

④ 危険な箇所でのライダー同士の補助行為が規則書に明記された。

⑤ イグニッションキルスイッチの装着が義務付けとなった。

2013 年は全日本のみでその他公認競技会は推奨とする。2014 年からは全ての公認競技会で義務付けとなる。

⑥ NB/J から NA に昇格する基準として、獲得ポイントと人数の両方で条件付されることが決定した。

3. 全日本運営 (競技方式統一) について

① 全日本トライアル競技方式統一ガイドラインが示された。

- 12 セクション×2LAP を基本とする。
- スペシャルセクションは、IAS を対象とし、2 セクション×1LAP を基本とする。
- セクションは 1/3 ずつの割合で、難・中・易を全クラスとも設定。うち 2 セクションは、IAS/IA、IA/IB が同一。
- セクション持ち時間は 1 分を基本とする。
- 2LAP の持ち時間は、全クラス共通 4 時間 30 分以内とする。(1LAP 目の持ち時間＝2 時間 30 分)
- スペシャルセクションは、上記時間に含まない。
- ウォーミングアップは AM10 時に統一する。査察時間も、可能な限り、AM10 時開始とする。
- 全大会共通として、大会役員の使用する TR 車両は、リヤスプロケットガード及びキルスイッチを装備し、乗車時はヘルメットを着用することを義務付けとする。
- オブザーバーの安全の為に、オブザーバーに専用ヘルメットを装着させること。
- エキジビジョン 125cc クラスは 2013 年も継続することとし、正賞・副賞の準備も主催者に協力をお願いする。

② 難易度表 (例) と全日本リザルト難易度グラフ (例) 提出され、セクション設置の参考とすることが確認された。

③ 「オブザーバーミーティング」に関する資料が提出され、全国の講習会等で活用することが確認された。

④ 2013 全日本トライアル各大会の審査委員長・査察員派遣予定が報告された。同時に 2013 年報告書書式が配布された。

⑤ 2013 年 全日本トライアル運営マニュアル資料が提出され、活用することが確認された。

- ⑥ 13 CTR INFO 01 (ノンストップルール)の日本語訳資料が提出され、FIM 支給の DVD が放映された。
 - 足つきまたは足つきしていなくてもストップしたら 5 点。後退した場合も 5 点。
 - セクションの持ち時間がなくなった。
 - 18~20 セクションの場合は 2LAP、12~15 セクションの場合は 3LAP となった。
 - 音量測定は、2mMAX 法で測定し、100dB/A (2st)、103dB/A (4st)となった。
 - 燃料タンクの交換はパドックでのみ認められる。パドック以外の場所で燃料タンクを交換した場合は、給油したものと見なされる。但し競技中のアクシデントによりタンクが破損した場合等に限り認められる場合がある。
- ⑦ TRGC 運営マニュアルとエントリー用紙(ライダー・アシスタント用)が提出された。
 - 審査委員会の構成をしっかりと保持すること。(セクション査察も全日本にならって実施する)
 - エントリーメ切は、各地方選手権の開催日程も考慮して決定する。
 - 医師と看護師は必ず配置すること。救急搬送病院を必ず確保すること。AED を準備すること。
- ⑧ 競技役員講習会で適用するトライアル競技役員テスト(2013 版)の提出がなされた。

4. その他について

- 以前提案した、特に災害時等の各大会の緊急電話番号の配備について改めて要望された。
- モトクロスでは九州・近畿・中国大会で WEB によるエントリーが試験運用される件について報告され、トライアルでもアウトソーシング等の方法で環境の整備ができないか?との提案がなされた。

以上